

コード No. 18505

**Anti-Human  
c-MPL-P (M617) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : *c-mpl* がん原遺伝子は、最初骨髄増殖性白血病ウイルス(MPLV)のウイルスにあるがん遺伝子 *v-mpl* の細胞ホモログとして同定されました。しかし、サイトカイン受容体スーパーファミリーとの相同性から、*c-mpl* 遺伝子は何らかのサイトカインの受容体をコードしていると予測されました。 *c-mpl* に対するアンチセンスオリゴマーは、選択的に巨核球のコロニー形成を抑制しました。さらに *c-mpl* 欠損マウスでは、脾臓と骨髄で血小板と巨核球の循環数が選択的に激減します。これらのことから、**c-MPL** のリガンドは **thrombopoietin (TPO)** であると考えられています。いくつかのグループは、**c-MPL** リガンドとして **TPO** を精製し、実際に生体内外での研究で、リコンビナント **TPO** が単独で巨核球前駆細胞の増殖・分化と巨核球の成熟に寄与することを示しました。また、*c-mpl* の選択的スプライシングにより、**c-MPL-P (wild type)** と **c-MPL-K (truncated)** の二つのアイソフォームがあります。

免疫抗原 : Human c-MPL-P の C 端部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 2~5 µg/mL にて使用可能

免疫沈降法 1~5 µg/test にて使用可能

特異性 : UT-7/TPO にて確認 (文献 1)

参考文献 : 1. Komatsu N, Kunitama M, Yamada M, Hagiwara T, Kato T, Miyazaki H, Eguchi M, Yamamoto M, Miura Y. Establishment and characterization of the thrombopoietin-dependent megakaryocytic cell line, UT-7/TPO. Blood. 1996 Jun 1;87(11):4552-60.